令和４年度第１回　備後圏域経済・文化研究センター　地域資料活用研修

「備後の古墳時代―加茂町の古墳を通して」

備後圏域経済・文化研究センター　センター長　青木美保

１，行事の主旨

本研究センターにおいては、教育活動として、地域資源が活用できる人材を育成する役割を担っている。地方の中核都市として、伝統文化の継承と活用について今後の都市計画に専門的な知見を持つ人材は必須である。経済・文化両研究部門において、それぞれ地域資料や地域の伝統文化、地域の経済活動について、専門的な知見を持つ地域の人材を講師として招いて、学生、及び地域の若年者に対する研修を実施する。場所は、研究センター研究室（社会連携推進センター3 階 306 室)、センター資料室（福山大学 1 号館 3 階 01312 室）とする。

令和４年度は２回を予定、第１回は本学の学生を主たる対象として、1 号館教室にて、備後における歴史の起源に遡り、古墳時代の備後の生活について、今年度の加茂町での実地調査を踏まえて専門家が解説する。資料として、古墳から発掘された遺物の紹介も行う。

２，行事の概要

日時　2022 年 7 月 20 日（水）15:00～16:20

場所　1 号館　01106 教室

対象とする資料

古墳からの遺物など埋蔵文化財から

講師

元（財）広島県教育事業団事務局　埋蔵文化財調査室長

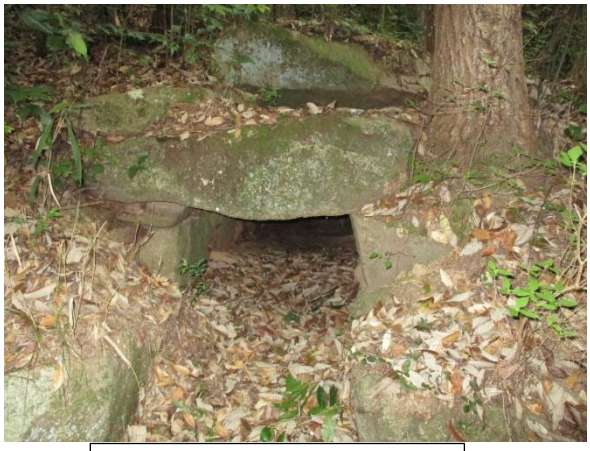
篠原　芳秀氏

参加者

社会科教員、学芸員を目指す学生、地域に関心を持つ

学生、一般学生　教員

※井伏は、エッセイ「郷里風土記」の中で郷土備後が古い伝説を多く持つ歴史的な場所であることを力説し、特に自分の生家付近について、「このあたりから山地にかけ、南向きの斜面には古墳の集団がよく見つかつた。私も子供のときの山で幾つとなく古墳を発掘し、土器をたくさん所有して遊戯のときに使用した。」と述べている。



土井古墳群の第 1 号古墳
井伏鱒二生家　裏山

同じく　土井古墳群の第 2 号古墳